

2024年12月29日(日)

日本キリスト教団 **久宝教会**  
第67巻第40号(通算3422号)  
教会設立 1959年6月14日

〒581-0072

大阪府八尾市久宝寺6丁目7-10

TEL 072-992-2131 FAX 072-992-2135

郵便振替: 00980-5-212130 「日本基督教団久宝教会」

【集会案内】こどもの礼拝: 毎日曜 10:00-10:20 何かお悩みがありましたらご遠慮なくご相談ください  
主日礼拝: 毎日曜 10:30-11:30 小さい子どもたちも、いつでも歓迎いたします。

しゅうほう  
**週報**

教会標語

かみさま ひと とも  
神様がすべての人と共におられる  
ことを証ししていく教会



ホームページ「久宝教会」  
(ウェブサイト)

http://www.koinonia.or.jp/kyuhokyokai  
【連絡先(牛田)】090-9161-4027

kyuho-church@koinonia.or.jp

神はこの世を大切に思い、ひとり子を差し出した。ひとり子に信頼をもってあゆみを起こす人が  
みな、滅びることなく、永遠のいのちを得るようになるためである。(ヨハネによる福音書3:16)



さいまつれいはい  
**歳末礼拝**

こうたんせつだい しゅじつれいはい  
**(降誕節第1主日礼拝)**



れいはい ちゅうけいはいしん  
《礼拝はインターネットで中継配信いたします。ホームページにてどなたで  
もご視聴いただけますので、それぞれの場所で共に礼拝をして頂きます》

ぜん そう もくとう ちよさくけんしょうめつ  
前 奏 黙 禱 AVE VERUM CORPUS (©著作権消滅)

まね ことば しょう せつ  
招きの詞 イザヤ書 60章 1-2節

さんびか ねんばん ばん な かね ね ちよさくけんしょうめつ  
賛美歌 1945年版410番「鳴れかし鐘の音」(©著作権消滅)

さいまつ もくそう いちねん ふ かえ  
歳末の黙想 「この一年を振り返って」

リタジー さんびか ばん よ ちから きょうだんしゅつばんきょく  
交禱と賛美歌 21-469番「善き力にわれかこまれ」(©教団出版局)

さんびか かいていばん ばん きょうだんしゅつばんきょく  
賛美歌『こどもさんびか改訂版』99番「ふるいものはみな」(©教団出版局)

しゅ いの  
主の祈り

たんじょうしゃしゅくふくしき  
誕生者祝福式 (\*)

うしだ ただし ぼくし  
牛田 匡 牧師

ささげもの  
献げ物 (\*\*)

は け ん しゅ いま い  
派 遣 「主は今、生きておられる」(©JASRAC)

しゅくふく  
祝 福

うしだ ただし ぼくし  
牛田 匡 牧師

こう そう ばん きょうだんさんびかいいんかい  
後 奏 アーメン コーラス (21-40-6番) (©教団讚美歌委員会)

ほう こく ページ さんしょう  
報 告 (10頁をご参照ください)

せき すわ れいはい さんか  
《席にお座りになったままで礼拝にご参加ください》

\* みんなで今年度12月までにお生まれになった方をお祝いします。

えんりょ もう で  
ご遠慮なさらず、どなたでもお申し出ください。

\* \* 「献げ物 (献金)」は受付にある献金箱にお入れください。

招きの詞 <sup>まね</sup> <sup>ことば</sup> イザヤ書 60章 1-2節 (聖書協会共同訳©日本聖書協会)

<sup>1</sup> 起きよ、光を放て。／あなたの光が来て

主の栄光があなたの上に昇ったのだから。

<sup>2</sup> 見よ、闇が地を覆い／密雲が諸国の民を包む。

しかし、あなたの上には主が輝き出で／主の栄光があなたの上に現れる。

歳末の黙想「この一年を振り返って」(交<sup>リタジー</sup>と賛美)

◆はじめに

司式者

全てを創られた神と、全てを大切にされるイエス・キリストと、全てを守られる聖霊と共にあって。アーメン。

年の瀬のこの礼拝を、「私は世の光である」(ヨハネ 8:12) と言われる方と共に祝いしましょう。

私たちがその方の光の中に生かされているということを思い起しましょう。

この一年の間に私たちが経験したことを全て、神様の前に持ち来たり、この方の光の前に、私たちの全てを差し出しましょう。

クリスマスは、大いなる神の愛が私たちに示された夜です。クリスマスに人間となった神は、この世界の暗闇に光をもたらしました。

(中央のロウソクに火を灯す)

新しい年を迎えるにあたり、過ぎゆく年を省みましょう。

この一年は、どのような年でしたでしょうか？

なすべきことで、何かし残したことはありますでしょうか？

この一年で、どのような経験をされたでしょうか？

またそれらの経験は、無くてはならないものでしたでしょうか。

新しい年を迎えるにあたり、ロウソクを灯し、過去のことを振り返り、自分自身の、また私たちの過去の記憶を呼び起こします。

◆お祈り

みんな

神様、私たちは祈ります。私たちが、命の源である、この世界と私たちをお創り<sup>つく</sup>になったあなたへと立ち帰ることができますように。そしてこの社会の中の様々

なひずみが癒いやされますように。この世界では、人が人を傷つけたり、殺めたりすることが続けられています。暗闇に閉ざされているかのように感じられるこの世界にあって、あなたが望んでおられるように、私たちがより人間的になることができますように。私たちをあなたから引き離したり、お互いに憎しみ合い、傷つけ合い、見知らぬ者としたりする力から、私たちを助けてください。

全てのものを守られる聖霊によって、私たちを隣人りんじんと共に生きる者としてください。アーメン

## ◆交唱（リタジー）

（1本目のロウソクに火を灯す）

司式者

このロウソクに火を灯し、今年これまでに新たに誕生した命、子どもたちのことを思い起こします。

すべての子どもが大切にされますように。とりわけ爆弾の飛び交う戦禍の中、また災害や病気、貧困の中で困窮している子どもたちの命が、今日一日も守られて明日に向かって成長することができますように。

この光は私たち自身をも照らしています。

神は言われました。

「恐れるな。私があなを贖あがなった。／私はあなたの名を呼んだ。

あなたは私のもの」（イザヤ書 43 章 1 節）

（黙禱）

賛美歌『讚美歌 21』 469 番「善き力にわれかこまれ」（1 節）

1 善よき力ちからに われかこまれ、 守まもりなくさめられて、  
世よの悩み 共ともにわかち、 新あたしい日ひを望のぞもう。

（2本目のロウソクに火を灯す）

司式者

このロウソクに火を灯し、今年これまでにパートナーとして共に生きる新たな歩みを始めた方々や、また何年間、何十年間という年月を共に連れ添った方々のことを思い起こします。

この光は、その人たちが共に生きている歩みを照らします。

時にはお互いの思いがすれ違ったり、衝突したりする時がありながらも、

また時にはお互いの習慣を変えたり、困難な時には重荷を支えあったりしながら、これからもお互いに信頼を抱くことができるように、とこの光はそれぞれの方々の道を照らし導いています。

「神は人を大切にする方です。ずっと人を大切にしている人は、神の内にとどまっており、神もその人の内にとどまっています」(ヨハネの手紙 I 4章 16節)

(黙禱)

賛美歌『讚美歌 21』 469番「善き力にわれかこまれ」(2節)

2 過ぎた日々の 悩み重く なお、のしかかるときも、  
さわぎ立つ 心しずめ、 みむねにしたがいゆく。

(3本目のロウソクに火を灯す)

司式者

このロウソクに火を灯し、今年これまでにこの地上での歩みを終えた方々、私たちがその死を悼む方々のことを思い起こします。

この光は、永遠の故郷へと至る、その方々の道を照らします。思いがけない突然の別れに戸惑ったこともありました。またこの地上での歩みに自ら終止符を打たれた方もおられました。さらに誰にも知られないまま、人に知られることなく見つけれないままに、この世を去った方々も多くおられました。それらの方々は皆、今、命の源である神の御許におられます。

「私たちは、生きるとしたら命の神のために生きるものであり、また、死ぬとしたら命の神のために死ぬのです。生きるにしても、死ぬにしても、私たちは命の神のものです」(ローマの人々への手紙 14章 8節)

(黙禱)

賛美歌『讚美歌 21』 469番「善き力にわれかこまれ」(3節)

3 たとい主から 差し出される 杯は苦くても、  
恐れず、感謝をこめて、 愛する手から受けよう。

(4本目のロウソクに火を灯す)

司式者

このロウソクに火を灯し、今年これまでの間に、そして今この時も、戦禍の中に生きなければならない人々のことを思い起こします。巨大な暴力に

よって命を奪われ、また脅かされ、苦しめられ、絶えず不安と恐怖の中にある方々、絶え間なく血と涙を流している方々、子どもたちのことを思い起こします。苦し過ぎる困難、とても感謝して受け止めることなど出来ない現実、不安と絶望、恐怖と憎悪に押しつぶされそうになっている方々のことを思います。

神様、一刻も早く無益な争いに終止符を打ち、お互いに傷つけ合う憎しみの連鎖から解放して下さい。神様、その方々の隣にあなたが確かにいてください、そして確かなる慰めと希望を与えてください。そのために私たちがなすべきこと、私たちに出来ることをお示してください。

「私は世の終わりまで、いつもあなたたちと一緒にいる」(マタイによる福音書 28章20節)

(黙禱)

#### 賛美歌『讚美歌21』469番「善き力にわれかこまれ」(4節)

4 主は再び 日の光と 喜びを贈られる

望みを主の手にゆだね、 来たるべき朝を待とう。

(5本目のロウソクに火を灯す)

司式者

このロウソクに火を灯し、私たちは今年これまでに経験した数々の大変だった出来事を思い起こします。

良いこと悪いこと、嬉しいこと悲しいこと、大きなこと小さなこと、様々なことがありました。

この光は、神様から与えられる道を喜び、喜ばしいこともその他のことも、私たちを慰める方からの賜物として、受け取ることができるよう、私たちを照らします。今はそれが出来なくても、いつか出来るようになるかもしれない……、その希望を持たせてください。

「あなたたちは命の神と一体の者として、いつも心晴れやかであってください。重ねて言います。心晴れやかで清々しくあってください」(フィリピの人々への手紙 4章4節)

(黙禱)

賛美歌『讚美歌21』469番「善き力にわれかこまれ」(5節)

5 輝かせよ、主のともし火、 われらの闇の中に。

主はわれらを導いて ひとつの群れとされる。

(6本目のろうソクに火を灯す)

司式者

このろうソクに火を灯し、今年、その命を懸けて、自由を守り、和解と平和を達成しようとして来た方々を思い起こします。暴力やハラスメント、差別や優越感、憎しみと劣等感に満ち満ちたこの世界の中で、それらによらずに、生き、働いて来た方々が確かにこの世界にはおられます。今、それらの方々のことを思い起こさせてください。

様々な苦しみの中にありながらも尚、たとえ持てる力は小さくても、望みを失わなかった方々のために、この火は今も燃えています。それは多くの人々が、神様の約束に希望を置いているからです。

「あなたがたのために立てた計画は、私がよく知っている——命の神の仰せ。それはあなたがたに将来と希望を与える平和の計画であって、災いの計画ではない」(エレミヤ書 29章11節)

(黙祷)

賛美歌『讚美歌21』469番「善き力にわれかこまれ」(6節)

6 静寂だけが 広がる時 澄んだ響きを聞こう

造られたものが歌う 絶え間ない歌声を

(7本目のろうソクに火を灯す)

司式者

このろうソクに火を灯し、私たちは強さも弱さも、不安も希望も、私たち一人一人を心に留めてくださる神様のみ前に思い起こします。

この光は、私たちが喜んでたどってきた道を照らします。そして、これまで行かなかった道へと、私たちを導きます。

この光は輝き続け、私たちがそれぞれ、来る年も、次のように言うことができるように、私たちを励まします。

「あなたの道を命の神に任せよ。命の神に信頼せよ。命の神が成し遂げてくださる」(詩編 37編5節)

(黙祷)

賛美歌『讚美歌21』469番「善き力にわれかこまれ」(7節)

7 善き力に 守られつつ、 来たるべき時を待とう。  
夜も朝もいつも神は われらと共にいます。

◆お祈り

司式者 祈りは私たちの生き方を変えることができます。そのことに信頼して、  
共にお祈りしましょう。

みんな 神様、私たちの祈りを聞き入れてください。

司式者 私たちの神、私たちは今、過ぎ去ろうとしているこの1年を省み、私たちが  
たどってきた歩みを振り返り、あなたに感謝をささげます。

私たちが経験した沢山のことのなかには、驚くべきことがありました。私  
たちを笑顔にする大きな喜びの時があり、また小さな喜びの時があり、私た  
ちを幸せにした数々の瞬間がありました。

どうか、そのような無数の時が、あなたから出たものであるということ  
私たちに認めさせてください。そのような素晴らしい数々の思い出を大切  
にして、あなたに感謝をささげることができますように。

みんな 神様、私たちの祈りを聞き入れてください。

司式者 私たちの神、私たちはまた、過ぎ去ろうとしているこの1年に起こった  
悲しいことや、私たちの生活の中で、完成されなかったこと、達成できな  
かったことの数々を思い起こします。

この世界には重すぎる課題が多く、私たちの小さな肩ではそれらはとて  
も担うことが出来ませんでした。また私たちには共に歩み始めた友がいま  
しましたが、途中で別れなければならないこともありました。それは誤解のゆえ  
であったり、衝突のゆえであったり、また病のゆえ、死別のゆえであったり  
しました。

みんな 神様、私たちの祈りを聞き入れてください。

司式者 私たちの神、私たちは、この人生という旅路を独りで歩むことはできませ  
ん。私たちと共に旅する友のために祈ります。

私たちが共に生きる一つの家族であるという思いを持つことができます

ように。また、お互いを大切にしているということを感じることができますように。とりわけ、この地にあって、差別や偏見、疎外に直面している方々と、私たちが一つになることができますように祈ります。

私たちが新しく出会うまだ知らない人たちを、怖がる必要がないということをお私たちに学ばせてください。見知らぬ相手として不安に思うのではなく、あなたがすべての人を大切にされているゆえに、その方々を支えることができますように。

みんな 神様、私たちの祈りを聞き入れてください。

(「大晦日のメディテーション」『世界の礼拝』205-211 頁を参照して一部改変)

### 主の祈り

(司式者)

私たちはみんな神様の子どもです。神様に信頼して、イエス様が教えられたといわれるお祈りを、共に祈りましょう。それぞれの方がお祈りしやすい言葉で、お祈りください。

(以下、みんなで)

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおおり、

地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を

今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしくください。

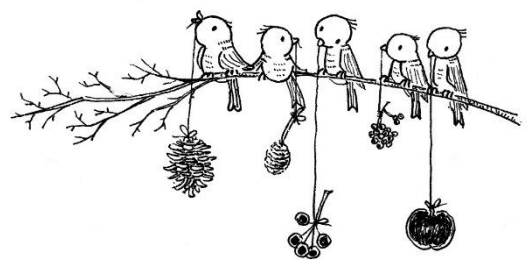
わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。

アーメン。 (日本聖公会・カトリック教会共同訳)





## 《先週のメッセージより》2024年12月22日 クリスマス礼拝

「小さき中に神宿る」より

牛田匡牧師

聖書 ルカによる福音書 2章1-20節

クリスマスに「人間となって生まれた神の子は、どこに生まれ、誰と共であったか」と言うと、それは世の中心、清らかさや華やかさからは遠く離れた粗末な家畜小屋でした。そもそも両親のヨセフとマリアは「自分の町に戻りなさい」という命令に従って、ベツレヘムに戻っていましたが、そこには親戚たちがいたにもかかわらず、彼らには居場所がありませんでした。それは恐らく、マリアのお腹の子が、父親不詳の「汚れた罪の子である」という偏見の故だったと思われます。けれども、家畜小屋という出産の場を用意し、その出産を手助けしてくれた女性たちが、確かにいてくれたのだらうと思います。だからこそ、マリアは無事に出産することができました。恐らく、そこで彼らを助けた人たちもまた、当時の社会の中で片隅に追いやられていた方々だったのではないかと思います。自分がしんどい思いを知っているからこそ、しんどい人を見たら放っておけない、という共感の心が、自然と目の前にいる隣り人に対して、手を差し伸べさせたのでしょ

う。目に見えない神の代弁者となって権威を振りかざす権力者たちとは、正反対の所に、むしろ権力者たちから抑圧されている側の人たちの間に、神は目に見える人間の姿となって来られました。それが「インマヌエル（私たちと一緒におられる神）」とも呼ばれるイエス様です。だからこそ私たち全ての人の「救い主（キリスト）」だと言われるようになりました。クリスマスに、神が人間になった。それも赤ちゃんとなって、私たちの隣に現れてくれたこと。それは超越的で圧倒的な力をもって、この地上に天変地異を起こして神の存在を誇示するのではなく、むしろ小さきものにこそ神が宿るということ。小さくて壊れてしまいそうな赤ちゃんを抱きかかえる所や、差別されて居場所すら与えられなかった夫婦によりそう所にこそ、そんな小さな小さな私たちの行動の中にこそ、神が共にいて働いて下さっているということを、示しているのだと思います。神は私たち人間の小さな手を介して働かれ、その存在を証しします。そのためにイエス様は、クリスマスに来られました。私たちの日々の暮らしも、働きも、決して独りではありません。神と人ともに支えられながら、また一足先に天に召された家族や友人たちにも支えられながら、日々の命が与えられていることを覚え、感謝の内に、またこれからの歩みを進めて参りましょう。

毎週の「メッセージより」は、ウェブサイト等にも順次掲載されています。

ホームページ



Facebook



YouTube



◎ 先週の報告 12月22日クリスマス礼拝 (コイノニア福祉会法人設立50周年記念礼拝)  
 礼拝出席 大人9名 献金 大人5,000円 中継視聴者数8回 感謝

◎次週 2025年1月5日(日) 新年礼拝 (降誕節第2主日礼拝)

招きの詞 コリントの信徒への手紙Ⅱ 1章 4節

聖書 マタイによる福音書 2章 1-15節

メッセージ「歓迎されない訪問者」牛田匡牧師

賛美歌 54-103番 (©P.D.)、新生192番 (©バプ連)、

21-278番 (©改訂委) 礼拝後に1月期の教会を考える会を行う予定です。



◎お知らせ

- ・これまでの「週報」や「メッセージ (全文)」はホームページに掲載しています。また中継録画のメッセージ部分をYouTubeでご覧いただくことも可能です。
- ・12月の釜ヶ崎支援のための「おにぎり作り」は、休会です。12月25日のクリスマスには、日本コイノニア福祉会の3施設 (旭丘まぶね保育園、特別養護老人ホーム大阪好意の庭、特別養護老人ホーム第二好意の庭) から、65食のお弁当を作って、釜ヶ崎・いこい食堂にお届けし、諸教会や諸団体、賛同者の方々から集められたお弁当と一緒に、お配りして頂きました。
- ・今年も「クリスマス献金」を集めています。献金先は「関西学院大学神学部後援会」「日本基督教団部落解放センター」「一般社団法人神戸国際支縁機構」「生活困窮者支援 (釜ヶ崎への毎月のおにぎり支援基金、他)」「関西労働者伝道委員会」「アハリー・アラブ病院を支援する会」「ナルド献金 (大阪教区・互助特別献金)」の7団体です。各団体の詳細や活動内容については、それぞれの団体のチラシや、ウェブサイトなどを、ご参照ください。
- ・年明け1月13日 (月・休) 14時~16時半にかけて、大阪クリスチャンセンター1階ホールにて、大阪教区第44回在日韓国人問題シンポジウム「在日として生きて来た歴史とこれから」が開催されます。(主催は日本キリスト教団大阪教区です) 講師は委哲さんと徐翠珍さんです。事前申込は不要で、参加費も無料です。どなたでもご参加ください。

◎ 次週以降の行事予定

	メッセージ	行事
2025年 1/5	牛田匡牧師	新年礼拝・ユーカリスト 教会を考える会
1/12	水谷憲牧師	
1/19	牛田匡牧師	おにぎり支援
1/26	池田優希牧師 (八尾教会)	河内地区講壇交換礼拝 誕生者祝福式 河内地区女性会 (14時~久宝教会・牛田牧師)



大阪教区第44回在日韓国人問題シンポジウム

「在日として生きてきた  
歴史とこれから」

2025年1月13日(月休) 14時~16時半  
 大阪クリスチャンセンター 一階ホール  
 〒544-0004 大阪市中央区玉造2丁目26-47)

講師：李 哲さん、徐翠珍さん  
 参加費無料

李 哲：1948年熊本出生。1972年中央大学卒業。1975年高麗大学大学院在学中に在日留学生連連スハイ事件で投獄。1990年在日韓国良心囚同友会結成し代役となる。2015年再審審判確定し2019年文相元大抵償より謝罪を受ける。2020年より「ウリ先達達」代役。獄中の体験記「長実白話」を2021年出版し日本、韓国両国で講演会活動を重ねている。

徐翠珍：神戸生まれ、在日中国人二世。公務員採用の国籍条項撤廃の願い、拒校押控拒否裁判外国人登録法天皇大教拒否訴訟など一連の拒校拒否運動・反天皇制・憲法9条等、様々な市民運動に関わりながら現在に至る。

主催：日本基督教団大阪教区 TEL.06-6761-8562  
 実行委員会構成：大阪教区社会委員会  
 大阪教区日韓宣教協約特別委員会  
 在日韓国朝鮮人問題活動センター